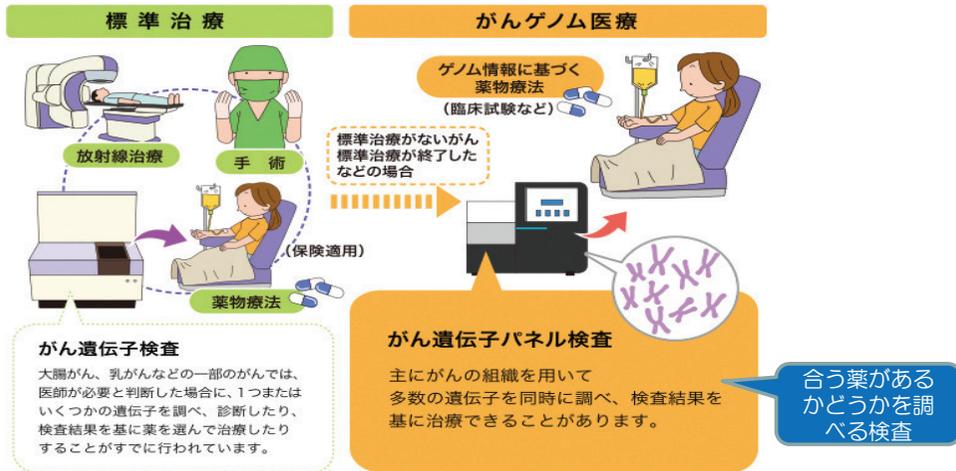


# がんゲノム医療の推進（がん医療機能分化推進事業）

## がんゲノム医療とは？

### 遺伝子情報に基づくがんの個別化治療の1つです

がんゲノム医療とは、主にがんの組織を用いて、多数の遺伝子を同時に調べ（がん遺伝子パネル検査）、遺伝子変異を明らかにすることにより、一人一人の体質や病状に合わせて治療などを行う医療のこと。



## 事業目的

県内でのがんゲノム医療の提供に向けて、各診療科横断的にマネジメントできる人材（がん薬物療法専門医）を育成し、県内拠点病院へ専門的な人材を配置すると共に、県内のがんゲノム医療、薬物療法に係る医療施設間の機能分化及びネットワーク化を図り、県内のがん治療水準の向上を図る

## 事業概要

県立医科大学に「がんゲノム・腫瘍内科学講座」を設置し、がん薬物療法専門従事者を育成

- 講座の体制：3名（教授1、准教授1、講師1）
- がん薬物療法専門医の育成

県内のがんゲノム医療、薬物療法に係る医療施設間のネットワーク化  
がんゲノム医療従事者（相談員、看護師等）の資質向上に関する事業

## 令和2年度の取組・実績

(23,083千円)

### 奈良県立医科大学に「がんゲノム・腫瘍内科学講座」設置・整備に係る費用、従事者等の育成に係る事業に対する補助

- 腫瘍内科学講座の設置・運営
- 腫瘍内科学講座の施設整備
- がん薬物療法専門医の育成

医大にて、R2.10に「がんゲノム・腫瘍内科学講座」を設置し、診療開始

## 令和3年度の内容

(34,786千円(案))

### 奈良県立医科大学の「がんゲノム・腫瘍内科学講座」の運営費補助

- 腫瘍内科学講座の運営（体制：教授他2名）
- がん薬物療法専門医の育成
- がんゲノム医療従事者（相談員、看護師等）の育成研修

## 国が進めるがんゲノム医療体制と奈良県の状況

### < 国 >

がんゲノム医療  
中核拠点病院  
(全国12カ所)

がんゲノム医療  
拠点病院  
(全国33カ所)

がんゲノム医療  
連携病院  
(全国161カ所)

### < 奈良県 >

#### がんゲノム医療連携病院（登録日）

#### 連携先病院

奈良県立医科大学附属病院 (H30年4月)	大阪大学医学部附属病院（成人症例） 大阪市立総合医療センター（小児症例）
奈良県総合医療センター (R2年1月)	大阪大学医学部附属病院
天理よろづ相談所病院 (R2年1月)	京都大学医学部附属病院
近畿大学奈良病院 (H31年4月)	近畿大学附属病院

## これまでの奈良県の課題

### ● ゲノム医療に必要な、がん薬物療法専門医が少ない

R2.6現在 県立医科大学附属病院 4人 県総合医療センター 1人 近畿大学奈良病院 3人 (計8人)

H31年4月：5人 → R元年9月：6人 → R2年6月：8人 (全国 1399人)

### ● 専門的な人材育成の場である「腫瘍内科学講座」がない

全国で腫瘍内科学講座のない国立大学医学部は、奈良県他2大学（群馬県、高知県）